

平成26年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)

実施報告書

HT26122

発展途上国でどうやって安全な食べ物を作るか～国際貢献に興味がある人のために



開催日：2014年7月28日(月)

実施機関：(独)農研機構 食品総合研究所
(実施場所) (農林交流センター(つくば市))

実施代表者：稲津 康弘
(所属・職名) (食品安全研究領域・研究上席)

受講生：高校生6名

関連 URL：

【実施内容】

＜受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点＞

発展途上国の人びとの生活を守るために『どんな国際協力が必要なのか』、そして『どのような国際貢献の形があるのか』を、現地の研究者へのインタビューを通して学び、『発展途上国の抱える諸問題』の解決に利用できる科学技術研究の一端を、実習を通して体験しました。

○実習

「細菌の見分け方～何の菌か決めてみよう～」というテーマで、食品中から分離した微生物について「生化学的性状試験」を高校生自ら行い、その結果から菌の名前を調べました。

また、「免疫学的手法(イムノクロマトグラフィー)」による食中毒菌の迅速検査の実演と、セミナーを交えて、「安全な食品を製造するための技術」について学びました。

○グループワーク

「発展途上国における食の問題」について、海外研究者の所属する研究室を訪問し、インタビューを行いました。「自国の抱える『食の問題』を解決するために、どのような研究が必要なのか」、「その研究が、自国でどのように活用されるのか」を高校生自ら海外研究者へ質問し、「食品研究による社会貢献の実例」について学びました。プログラムの最後には、「発展途上国の抱える諸問題を解決するために望まれる援助の在り方」について、参加者全員でグループ討論を行いました。

特にグループワークに関しては、高校生の活発な討論を行うために、ティーチングアシスタントの学生(大学生・大学院生)にファシリテーターとして参加してもらい、討論に不慣れな高校生でも、発言しやすい環境をつくるように工夫しました。

＜当日のスケジュール＞

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:30 開講式
- 10:30～11:10 講義「アジアの発展途上国の暮らしについて」
- 11:15～12:00 研究所見学「海外研究者へのインタビュー(5研究室)」
- 12:00～13:00 ランチ交流会
- 13:20～13:50 講義「菌の見分け方」
- 14:00～15:30 実習「菌の名前を調べよう」
- 15:40～16:10 グループワーク
「海外研究者へのインタビューを通して見えた『発展途上国の抱える問題』は？」
- 16:15～16:50 グループワーク
「現地に望まれる国際援助の在り方とは？」
- 16:50～17:00 閉講式(未来博士号授与)
- 17:00 解散

＜実施の様子＞

海外研究者へのインタビューの様子



実習風景



【事務局との協力体制】

- ・事務手続きに疑問点が生じた際に、電話やメール等で問い合わせが出来、速やかに手続きを進めることが出来た。
- ・予算の執行が遅く、情報誌への広告依頼が遅くなってしまった。

【広報活動】

- ・月刊ぷらざ県南版(6月号)掲載
- ・常陽リビング(6月28日号)掲載
- ・食品総合研究所ホームページ掲載

【安全配慮】

- ・高校生が実習に使用する微生物は、安全性が確認されているもののみを使用した。

【今後の発展性、課題】

- ・参加者が集まらず、当初のプログラムに変更を加え、少人数で対応出来るプログラムに作り直しました。実施機関それぞれの広報活動だけでなく、事務局に広報活動を主導していただくことが必要と感じました。

【実施分担者】

川崎 晋	(独)農研機構	食品総合研究所	主任研究員
中村 宣貴	(独)農研機構	食品総合研究所	主任研究員
細谷 幸恵	(独)農研機構	食品総合研究所	研究員

【実施協力者】 14 名

【事務担当者】
神山 修

統括部・統括部長